

---

# 東遊園地再整備基本計画

平成30年6月

神戸市

---

## はじめに

近年の都心活性化・三宮再整備の動きの中で、東遊園地は回遊性向上の拠点としてさらなる日常的なにぎわいや利活用の創出が期待されており、平成 27 年度からさまざまな取り組みが行われています。平成 28 年度には芝生化実験やにぎわい創出事業とあわせて東遊園地の再整備について検討を進め、東遊園地再整備の基本構想（案）を作成しました。

本基本計画は、平成 28 年度の成果を反映しながら引き続き行われる「芝生化実験」「にぎわい創出事業」の結果を踏まえ、幅広い意見を取り込みながら、基本計画の検討・作成を行ったものです。

平成 30 年 6 月

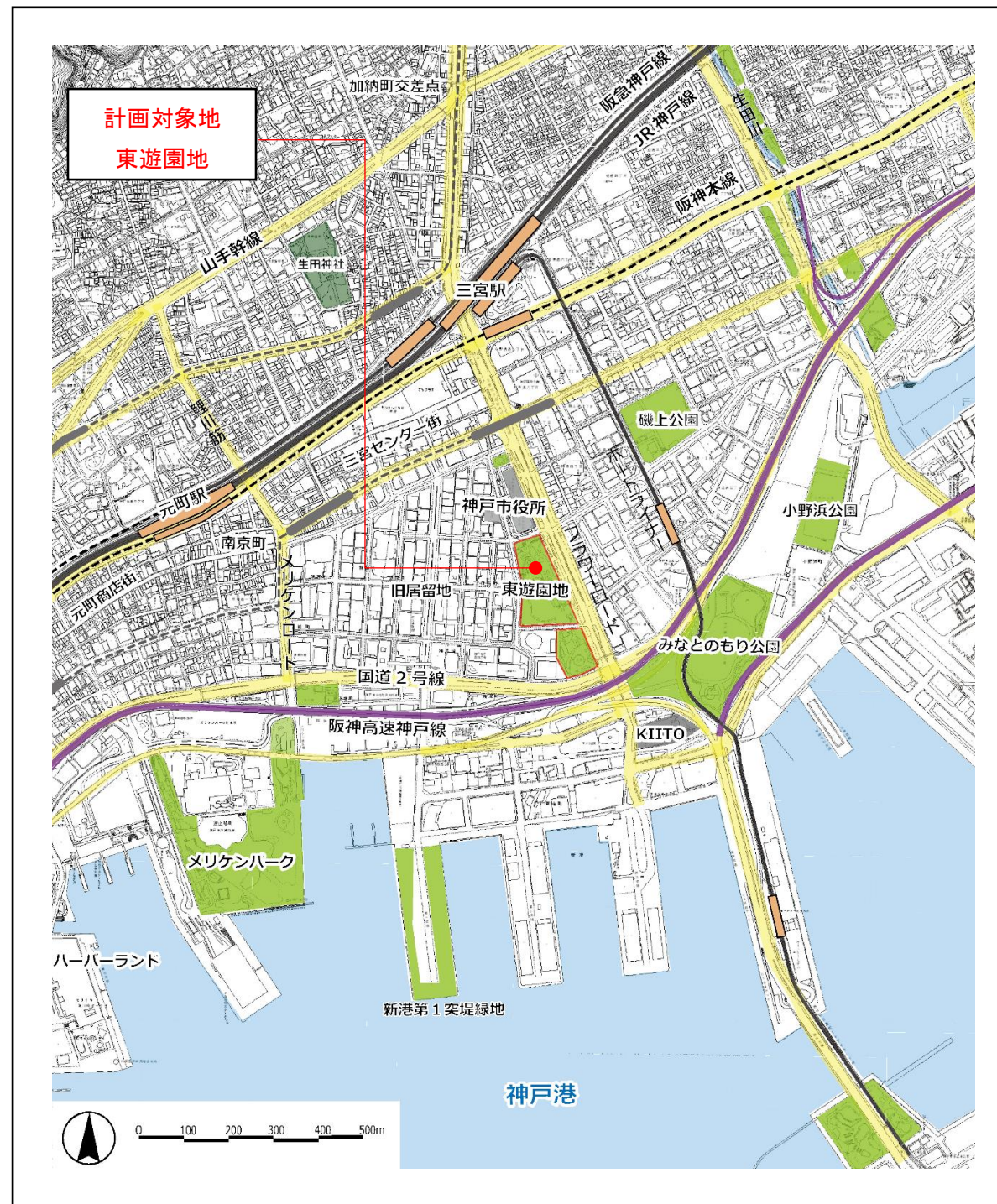
## 目次

1. 東遊園地の位置・規模等 .....	1
2. 東遊園地の歴史.....	1
3. 施設概要 .....	2
4. 課題整理 .....	3
5. 東遊園地の目標・将来像 .....	4
6. 都市スケールの考え方.....	5
7. 地区レベルのゾーニング・動線計画 .....	6
8. 再整備の考え方.....	7, 8





名称	東遊園地		
所在地	神戸市中央区加納町6丁目		
公園種別	地区公園	規模	約2.7ha
開設年	1875(明治8) 「内外人遊園地」として開設		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 国有地盤</li> <li>• 国登録記念物(名勝地関係)</li> </ul>		



### ■東遊園地のあゆみ

幕末の安政5年(1858年)にアメリカをはじめ5ヶ国と結んだ通商条約によって、神奈川・長崎・函館・新潟・兵庫の開港と江戸・大阪の開市等が決められ、翌年には函館・横浜・長崎が開港した。兵庫は、慶応3年(1868年)開港が実施された。開港に伴い設けられた外国人居留地は慶応4年(1869年)に竣工し、永代借地権の競売が開始された。神戸の居留地の基本的な設計を行ったのは、イギリス人土木技師ジョン・ウィリアム・ハートで、居留地内を126区画に分け、西側にパブリック・ガーデン、海岸沿いにプロムナード、東側にレクリエーション・グラウンドが計画されている。

外国人の居住開始とともに欧米のさまざまなスポーツがもたらされた。そのための公園を開設することは幕府と約束されていたが、すぐには着手されなかった。外務省・兵庫県・居留地事務局で協議が続き、明治8年(1875年)「神戸外国人居留地内に公園地取設け議定書」を締結し、正式に公園として開設された。公園は無税地とし、開設維持費用負担及び管理は居留外国人が行うとされ、「内外人公園地」と称された。

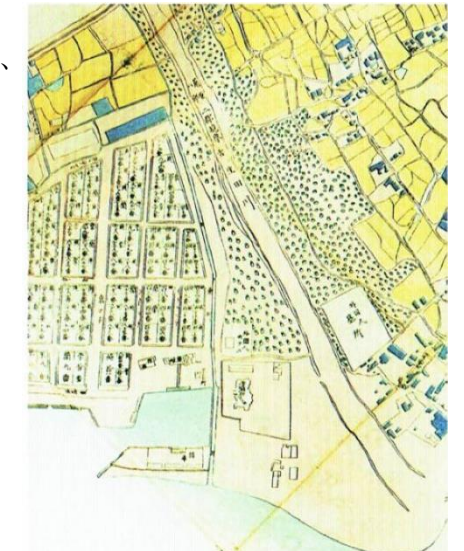
明治32年(1899年)、条約改正に伴い、全国の居留地が一斉に返還された。神戸の居留地も市域に編入され、地内の遊園は公園として残され、県知事から神戸市長に引き継がれた。以後、公園は神戸市の管理となり、神戸市条例を制定し、名称も「加納町遊園地」となった。翌年には、日本人と外国人による維持管理のための「遊園地保護委員会」が設置され、昭和16年(1941年)まで続いた。

大正11年(1922年)、神戸市告示第54号により「東遊園地」と改称された。

昭和30年(1955年)、東遊園地の北側部分に神戸市役所を建設する(年)に完成した。本庁舎北側には日本で最初の花時計が設置された。

昭和38年(1963年)には加納町7丁目の南部が公園に編入され、大噴水が設置された。その後昭和48年(1973年)に公園の再整備が行われ、地下駐車場が設置された。

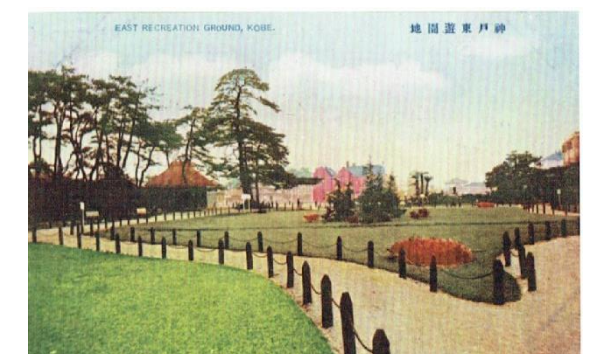
平成7年(1995年)1月17日、阪神・淡路大震災が発生、東遊園地は避難場所として使われた。同年12月、尊い犠牲者の慰霊と鎮魂、神戸の復興と再生を願って「神戸ルミナリエ」が旧居留地と東遊園地一帯で開催された。また、平成11年(1999年)には「阪神淡路大震災1.17のつどい」が開催され、竹灯籠で形作られた1.17の文字に再生ろうそくを浮かべ鎮魂の祈りが捧げられた。以後、毎年1月17日に開催されている。平成12年(2000年)には、「慰霊と復興のモニュメント」・「希望の灯り」が完成し、震災を記憶し、犠牲者を慰霊する場となっている。



地図①  
兵庫神戸実測三千分箇之縮図 全国の第老部 明治5年



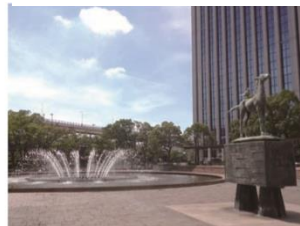
神戸東遊園地  
KR&ACの体育館が見える



神戸東遊園地 大正後期～昭和初期  
中央奥の建物は異人館の設計を多く手がけたイギリス人建築家ハンセルによる神戸クラブの建物



噴水広場



面積 約 2,100 m<sup>2</sup>  
(噴水約 500 m<sup>2</sup>含む)

慰霊と復興のモニュメント



面積 約 1,500 m<sup>2</sup>

多目的広場



面積 約 3,000 m<sup>2</sup>

緑陰

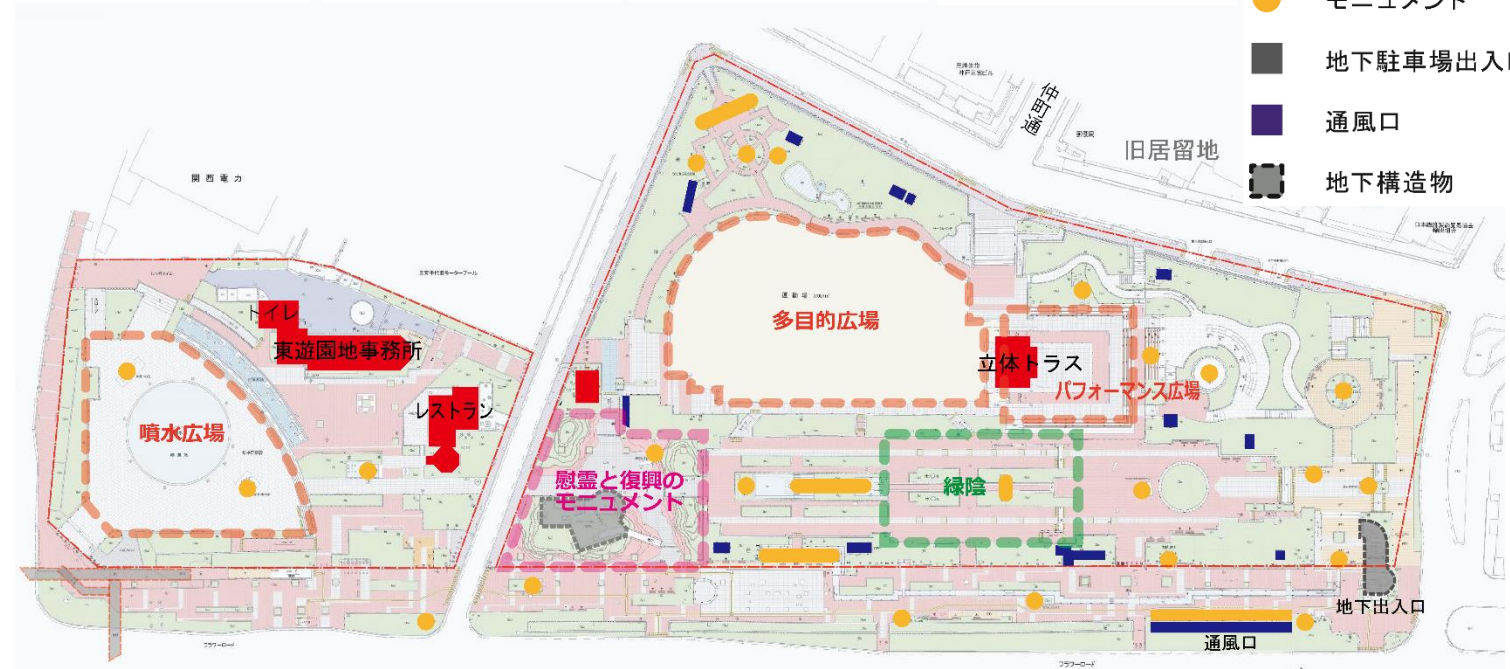


面積 約 1,200 m<sup>2</sup>

パフォーマンス広場



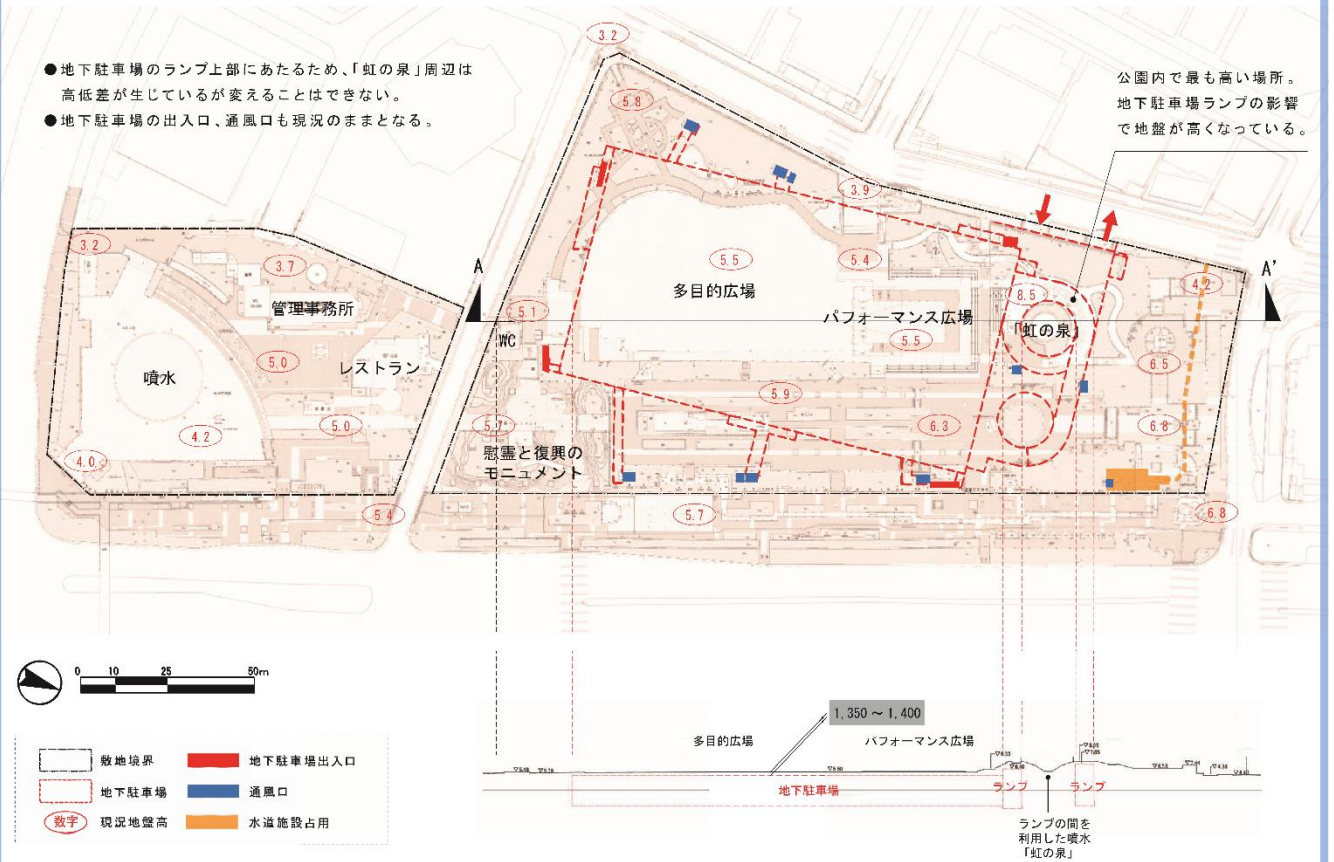
面積 約 1,200 m<sup>2</sup>



- モニュメント
- 地下駐車場出入口
- 通風口
- 地下構造物

■地下駐車場

- 地下駐車場のランプ上部にあたるため、「虹の泉」周辺は高低差が生じているが変えることはできない。
- 地下駐車場の出入口、通風口も現況のままとなる。



公園内で最も高い場所。  
地下駐車場ランプの影響で地盤が高くなっている。



トイレ(南側)



面積 約60m<sup>2</sup>(RC造)  
設置 平成2年

東遊園地事務所



面積 約300m<sup>2</sup>(RC造2階建)  
設置 平成2年

レストラン



面積 約200m<sup>2</sup>(RC造2階建)  
設置 平成2年

トイレ(北側)



面積 約400m<sup>2</sup>(RC造)  
設置 平成2年

立体トラス



面積 約300m<sup>2</sup>(鋼製トラス)  
設置 平成1年

地下出入口



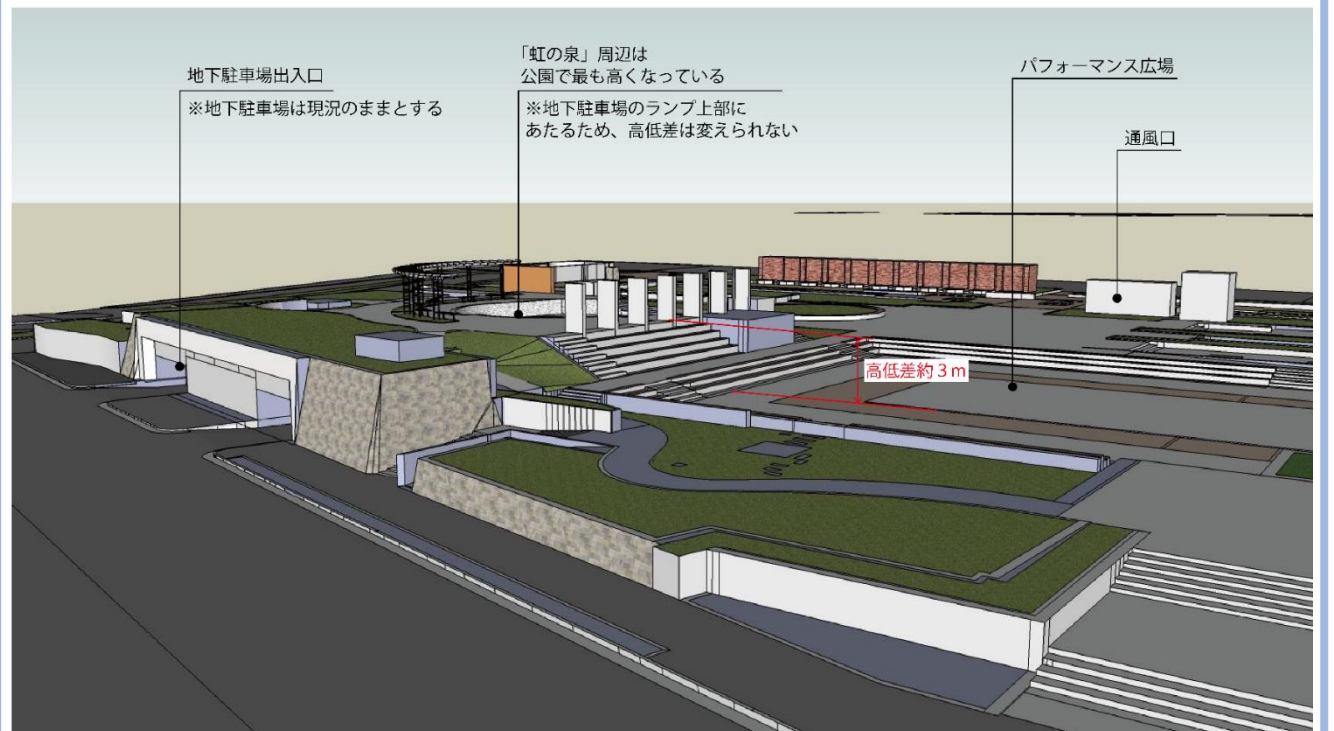
面積 約100m<sup>2</sup>



地下駐車場出入口



通風口



地下駐車場出入口  
※地下駐車場は現況のままとする

「虹の泉」周辺は公園で最も高くなっている  
※地下駐車場のランプ上部にあたるため、高低差は変えられない

高低差約3m

パフォーマンス広場

通風口



■印... 良い点、保全したい点 ■印... 課題、改変したい点

視点	内容
①歴史	<p>【居留地と公園の歴史】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■東遊園地は、居留地に住む外国人の求めでつくられた日本で最も古い公園のひとつとして利用されている。</li> <li>■東遊園地は、外国人によって神戸にスポーツ・レクリエーションが展開され、彼らの社会貢献活動を今に伝える歴史的な場所。</li> <li>■外国人と日本人の間で調整をしながら利用されてきた大正時代を経て、戦後改修を重ね、神戸の中心の公園として多くの市民に利用され続けてきた。</li> </ul>  <p>明治後期～大正期の東遊園地</p>
②都心	<p>【核となる空間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■東遊園地は、都心の核となる貴重なオープンスペース。</li> <li>■フラワーロード沿いは、高質な植栽管理が行われており、花のまちなイメージを演出している。</li> <li>■旧居留地側の入口が、フラワーロード側に比べて殺風景。</li> </ul> <p>【人の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■フラワーロードの人が市役所以南に流れない。</li> <li>■国道2号線において分断感がある。横断の歩道橋が長く公園への見通しを阻害している。</li> </ul>  <p>フラワーロード</p>
③回遊	<p>【園路】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■フラワーロード沿いは、水路や彫刻、花壇などにより、楽しみながら歩けるプロムナードとなっている。</li> <li>■フラワーロードの歩道は、水路や植栽や屈曲により、歩きにくい部分がある。</li> <li>■公園が、旧居留地からフラワーロードへの通過動線となっている。通過動線上にバリアが多い。</li> <li>■公園の北側と南側が道路(葺合南58号線)により分断している。</li> <li>■国道2号の横断が困難であり、ウォーターフロントへの連続性を分断している。</li> </ul>  <p>通勤通学の通過動線</p>
④景観空間	<p>【景観】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■フラワーロードは、四季折々の草花や花灌木と彫刻が調和する美しい景観を呈し、市民に親しまれている。</li> <li>■慰霊と復興のモニュメントと市庁舎1号館を結ぶビスタ軸が特色ある景観を形成している。</li> <li>■市役所1号館は公園への眺望点となっている。(ルミナリエ等)</li> <li>■公園内への見通しが悪く、閉鎖的な空間となっている。</li> <li>■出入口がわかりにくく、魅力的なエントランス景観でない。</li> <li>■居留地側の街並み景観と調和していない。高い擁壁や街角が殺風景。</li> </ul> <p>【空間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■公園の北側と南側、フラワーロードと公園が分断した空間となっている。</li> <li>■公園内は、空間が細分化しており閉鎖的な空間が多い。</li> <li>■緑陰を活用した新たな賑わい空間が生れている。</li> </ul>  <p>フラワーロードの花壇</p>  <p>慰霊と復興のモニュメント</p>

視点	内容
⑤施設	<p>【建築】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■レストランや管理事務所は、旧居留地時代の建物を模した外観で、神戸らしい景観を形成している。</li> <li>■レストラン周辺の植栽により公園と分断されている。</li> </ul> <p>【モニュメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■「花とみどりの彫刻」は彫刻をまちづくりに取り入れる主旨で、1960年代後半から整備された。</li> <li>■震災や歴史関連のモニュメントが多く設置されている。</li> <li>■阪神・淡路大震災慰霊と復興のモニュメントは公園の主要施設だが入口からの動線が複雑で分かりづらい。</li> <li>■彫刻が混在しており歴史上の意義を伝えられていない。</li> <li>■「大噴水」は大きな面積を占めているが、利用者が少ない。</li> </ul> <p>【占用施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■地下駐車場(延床面積19,300㎡)とその付帯施設。</li> </ul>  <p>レストラン、管理事務所</p>  <p>噴水</p>
⑥花みどり	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■樹木が成長しており、都心の貴重なみどりとなっている。</li> <li>■常緑樹が多く季節感に乏しい。</li> </ul> <p>【旧居留地側外周植栽帯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■高木(クスノキ)が成長し、旧居留地側からみどりのアイストップとなり、公園利用者に緑陰を提供している。</li> </ul> <p>【東側の植栽帯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■Farmers Marketの会場(緑陰空間)として活用されている。</li> <li>■メタセコイアやラクウショウの植栽帯が、特色ある景観を呈し、利用者に緑陰を提供している。</li> <li>■メタセコイアやラクウショウは生育が悪く本来の樹形ではない。</li> </ul> <p>【フラワーロード側植栽帯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■植栽帯により公園とフラワーロードが分断している。</li> <li>■植栽帯により、公園内部の空間(広場と広場)が分断している。</li> </ul>  <p>フラワーロード側植栽帯</p>  <p>園内の植栽帯</p>
⑦利用	<p>【イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■阪神・淡路大震災犠牲者の慰霊と鎮魂の意を込めた「ルミナリエ」「1.17の集い」が開催されている。</li> <li>・ルミナリエ(来場者数:3,396,000名/10日間2017年度)</li> <li>・1.17の集い(約37,000人/2017年度)</li> <li>■「神戸まつり」「神戸マラソン」等のイベントが開催されている</li> </ul> <p>【日常利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■都心の利便性良い立地にもかかわらず、平日の利用が少ない。</li> </ul> <p>【社会実験】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■にぎわい創出に向け、芝生広場を活用した、公園の魅力を高めるプログラムが実施されている。</li> </ul>  <p>社会実験「アーバンピクニック」</p>
⑧安全	<p>【阪神・淡路大震災】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■阪神・淡路大震災を伝えるためのモニュメントや施設がある</li> </ul> <p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■東遊園地:緊急避難場所(地震・津波・大火事)</li> </ul> <p>【防犯】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■フラワーロード側から公園内部への見通しが悪い</li> <li>■死角が多い(北側、フラワーロード等)</li> <li>■南側園地内で見通しが悪い所がある(植栽帯などによるもの)</li> </ul>  <p>見通しが悪い空間</p>



## 《東遊園地再整備計画の目標》

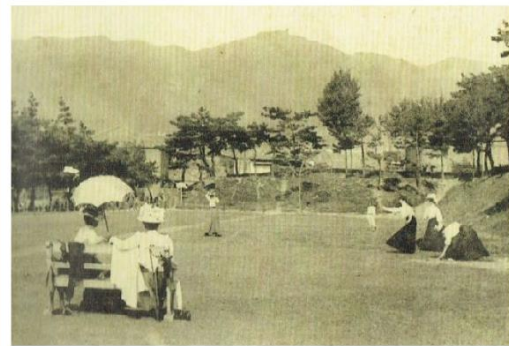
## 【目標①】歴史文化の薫りを楽しむ

## ■公園の歴史文化の魅力活用

- ・旧居留地との一体性・つながりを高める
- ・居留外国人と日本人の交流の歴史や多文化共生の精神を活かす
- ・モニュメント、顕彰碑等を整理・活用し 歴史を正しく伝える

## ■神戸開港 150 年の歴史文化の魅力活用

- ・人・もの・情報・文化が集まる港都の魅力を活かす



## 【目標②】都心の回遊性を高める

## ■三宮からウォーターフロントへの誘導

- ・神戸らしい高質な花と緑のプロムナードの形成
- ・フラワーロードと公園の一体性を高める
- ・フラワーロードからのアプローチ改善
- ・公園南側の魅力向上(人の流れを南へ牽引)
- ・地下街との連続性強化

## ■旧居留地とのネットワーク形成

- ・旧居留地からのアクセス改善

## ■歩行者・自転車ネットワークの形成

- ・レンタサイクル拠点の整備



## 【目標③】心に残る景色を創る

## ■‘神戸らしさ’が薫る街角の創出

- ・公園のエントランス景観の改善

## ■絵になる風景をつくる

- ・魅力的な夜間景観・眺望景観の創出
- ・撮影スポットの拡充

## ■神戸を訪れる人を花でもてなす

- ・高質な花みどり景観の創出
- ・季節を演出する花みどり景観の形成

## ■環境と調和する空間をつくる

- ・水、みどり、生物に溢れたロハスな空間づくり



## 【目標④】市民の想いで賑わいを創る

## ■大規模イベントの受入れ

- ・「神戸まつり」「神戸マラソン」等のイベントの開催

## ■市民による多様なマネジメント

- ・市民によるマネジメントを実施し、都心ににぎわいを創出する
- ・地産地消を楽しむ

## ■公園を育てる協働の仕組みをつくる

- ・持続可能な公園の管理運営
- ・協働のラウンドテーブル創り
- ・民間活力の導入



## 【目標⑤】しなやかにまちの安全・安心を高める

## ■震災の歴史・教訓の継承

- ・慰霊と復興のモニュメントの保全活用
- ・阪神・淡路大震災の慰霊と鎮魂のための「ルミナリエ」「1.17の集い」の開催

## ■地域防災力の向上

- ・緊急避難場所としての機能確保
- ・楽しみながら地域防災力を高める
- ・防災関連情報の伝達表示

## ■防犯対策の強化

- ・見通しの改善・死角の解消



## 《東遊園地の将来像》



### 「BE KOBE」 神戸を誇り、神戸への愛着が育つ場所 都心を美しく彩り、新しい出会いと交流が生まれる遊園

#### 1. 人が主役の公園 —公園が人と人をつなぐ—

神戸の都心に新しい人の流れをつくり、新しい出会いと交流からにぎわいが生まれる公園。神戸の特色でもある「進取の気性」を活かし、若い世代のクリエイティブな発想・活躍を応援する公園。

#### 2. ‘神戸らしさ’が光る公園 —公園が山・海・まちをつなぐ—

旧居留地の歴史や文化が感じられる公園。旧居留地の多文化共生や新たなレクリエーション創出の精神を継承し、神戸の 海・山・まちの魅力をつなぐ拠点となる公園。

#### 3. ‘しなやかな器’となる公園 —想いやしくみをつなぐ—

市民や民間活力との連携によるマネジメントや、様々なかたちの利用を柔軟に受けとめる、持続可能な包容力のある公園。





関連事業

■KOBEパークレットの整備



■三宮プラッツのリニューアル



■葺合南54号線の整備



■フラワーロード『光のミュージアム』の整備



■コミュニティサイクル「コベリン」の拡充



■三宮クロススクエアの整備



■新たなバスターミナルの整備



■メリケンパークの再整備



■神戸ポートオアシスの建設



■新港突堤西地区再開発事業



■本庁舎2号館再整備等



都市スケールの考え方

パークコネクト  
まちと海を緑のオープンスペースでつなぐ

えき〜まち空間からウォーターフロントへ  
みどり(公園やオープンスペース)の中を  
歩いて 楽しく 安全に  
回遊できる都市



## 都市スケール

## 回遊できる都市

まちと海を緑のオープンスペースでつなぐ

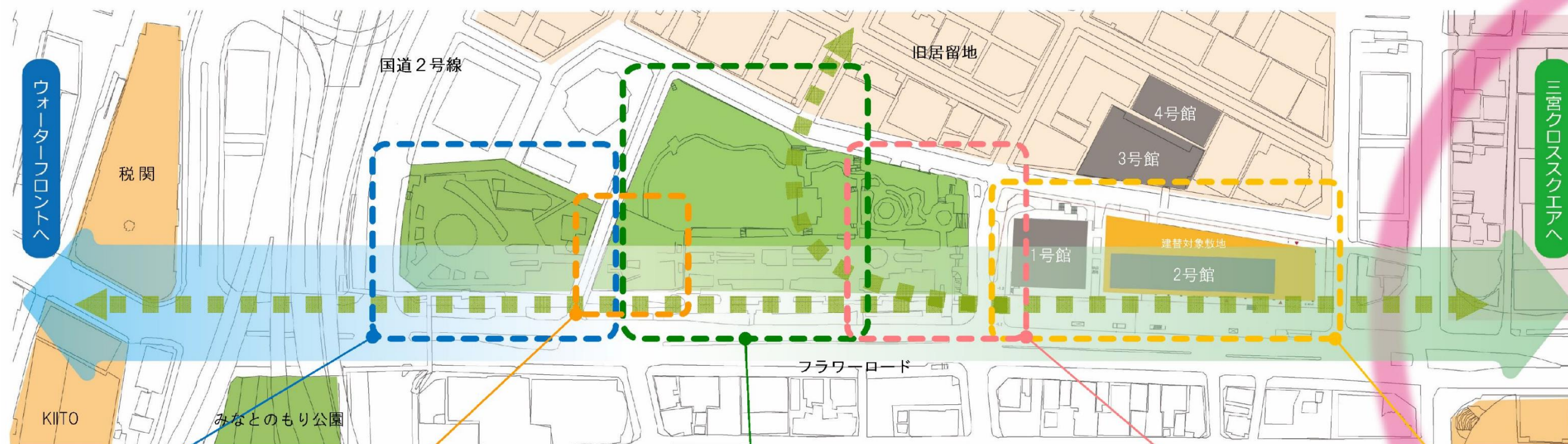
## 地区スケール

## フラワーロードと一体的に、新たなにぎわいが生まれるリニアな広場

リニアな広場に沿って、多彩な風景がつながり、**広がっていく**

## 公園スケール

東遊園地を、まちに向かって**開いていく**



## 花と彫刻の街角

- フラワーロード南端の街角として、神戸の都心とウォーターフロントへの結節点となる空間



## 慰霊と復興のシンボル空間

- 阪神淡路大震災を記憶し、復興の歩みを後世に伝える空間



## 広場と木陰のにぎわい空間

- 市民のアウトドアリビングとなる芝生広場と、多様なプログラムに対応する舗装広場
- フラワーロードと一体的な、緑陰の空間



## 東遊園地らしいエントランス

- にぎわいがしみ出す魅力的でオープンなエントランス
- 東遊園地らしいキースケープ



## 市役所ガーデン

- 新2号館低層部の誘客施設と一体となって人が滞留・交流できる、緑陰空間





○東遊園地の将来像を実現するための基本計画を「再整備の考え方」としてまとめた。

○基本的な考え方を「東遊園地をまちに向かって開いていく」と定め、残したいもの、変えたいもの、創りたいもの、の3つの視点で整理した。

## 再整備の考え方



# 東遊園地を、まちに向かって開いていく

### 残したいもの

—次世代につなぎたい—

### 変えたいもの

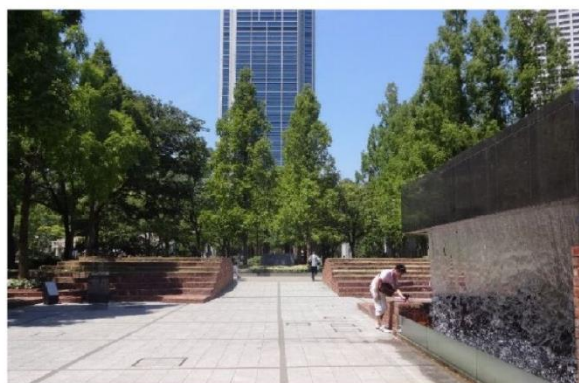
—安全や安心、利便性の視点から改変が必要—

### 創りたいもの

—神戸の都心・東遊園地の未来を見据えて新たに創りたい—

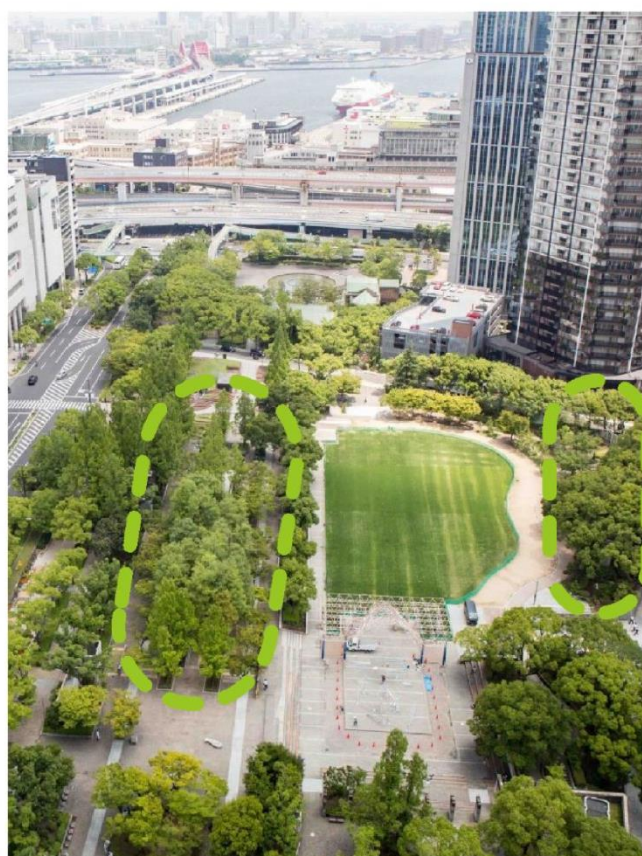
#### 1. 『慰霊と復興のモニュメント』

- 阪神・淡路大震災を記憶し慰霊する空間を守る
- 復興の歩みを後世に伝える



#### 2. 都心の豊かなみどり

- 神戸の都心三宮の貴重なみどりを保全し活用する
- シンボルとなるみどりや、緑陰をつくるみどりなど



#### 1. 空間どうしの分断感

- フラワーロードと公園を分断している中低木や構造物
- 公園内の空間（広場）を分断している中低木や構造物
- 北側園地と南側園地の分断感



#### 2. 閉鎖的な街角

- フラワーロード側から公園の入口がわかりにくい
- 旧居留地に対して閉鎖的なエントランス空間



#### 3. ウォーターフロントへの結節点（南側園地）

- 南側園地が有効活用されていない（利用が少ない）



#### 4. 東遊園地の歴史や文化を伝える彫刻等

- 神戸や東遊園地の歴史・文化を市民や来訪者につたえられるような彫刻やモニュメントの再配置の検討が必要

#### 1. しなやかな器となる広場

- 日常的にくつろげる、市民のアウトドアリビングとなる芝生広場
- 多様なプログラムやイベントに対応できる広場



#### 2. にぎわいや交流が生まれる拠点施設

- 北側園地  
(例) カフェ+αの機能をもつ拠点施設
  - 南側園地
- 1段階 既存建物を活用した花みどりの管理拠点
- 2段階 都心の回遊性を高める拠点施設

イメージ（南池袋公園）



#### 3. 花時計

- 神戸のシンボルである、花時計の移設





## 再整備の考え方

- 南北の園地や公園とフラワーロードなど空間どうしの一体感を高めるとともに、しなやかな器となる広場、にぎわいが生まれる拠点施設等を配置。
- 周辺で進んでいる関係事業とより柔軟に連携していくために、基本的な考え方を示した上でより優れたデザインを検討していく。

